

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0873100978		
法人名	医療法人社団正信会		
事業所名	グループホーム 大洗		
所在地	茨城県東茨城郡大洗町大貫町長峰2922-1 (電話) 029-264-5212		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】 (20年10月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤 10人, 非常勤 10人, 常勤換算 12.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての ~ 1階部分		
------	-------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月27日現在)

利用者人数	23 名	男性 4 名	女性 19 名
要介護1	4	要介護2	6
要介護3	10	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	
年齢	平均 83.7 歳	最低 73 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団正信会 美野里病院 伊藤歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム独自の「自分らしく」を理念に掲げ、職員は日々利用者本位の支援をしている。
サービスの質の向上を目指し町と連携するとともに、運営推進会議を有効に活かし地域に密着したホームづくりを目指している。
特別なカリキュラムはないが、規則正しい生活習慣を身につけさせることで利用開始時に食事介助やトイレ介助が必要だった利用者が現在は普通の生活をしている。
利用者は職員の思いやりに満ちたさりげない行動と気遣いで穏やかで安心した生活をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題を全職員で検討し改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が外部評価や自己評価の意義や目的を理解し自己評価を作成している。 外部評価の課題を検討し、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は家族の代表や民生委員、地域の代表、行政関係者の構成により、利用者の生活状況を報告している。 委員から地域の情報を得てサービスの質の向上に活かしているが、委員の都合に合わせて開催しているため開催回数が少ないので委員が全員揃わなくても2ヶ月に1回運営推進会議を開催することを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見や要望を汲みあげられるよう玄関に意見箱を設置している。 重要事項説明書に市の相談受付窓口を明記している。 家族の訪問時や電話で家族の意見を聴きサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 民生委員を通じて地域の人々にホーム行事の案内をしている。 中学生の体験学習の受け入れを各中学校に通知し実施するとともに、玄関に中学生の感謝の手紙を掲示している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしく」という事業所独自の理念を掲げているが、地域密着型のサービスとしての理念を確立するまでには至っていない。	○	地域密着型サービスとしての役割を意識した理念を全職員で作成することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	母体の理念とは別にホームの理念を全職員で決め実践しているが、職員で定期的に話し合うまでには至っていない。	○	職員で定期的に話し合うとともにサービスの質の向上を目指した取り組みを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員を通じて地域の人々にホーム行事の案内をしている。 中学生の体験学習の受け入れを各中学校に通知し実施するとともに、玄関に中学生から届いた感謝の手紙を掲示している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価や自己評価の意義や目的を理解し自己評価を作成している。 外部評価の課題を検討しサービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族の代表や民生委員、地域の代表、行政関係者の構成により、利用者の生活状況を報告している。 委員から地域の情報を得てサービスの質の向上に活かしているが、委員の都合に合わせて開催しているため開催回数が少ない。	○	運営推進会議は委員が全員揃わなくても2ヶ月に1回開催することを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する定例会議や勉強会に積極的に参加している。 市福祉課から利用依頼があるなど、情報交換やサービス内容の話し合いをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の参加を呼びかけた行事予定やホームの様子を記載した広報誌を3ヶ月に1回発行し家族に送付している。 利用者一人ひとりの暮らしぶりや近況等を電話や家族等の訪問時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を汲みあげられるよう玄関に意見箱を設置している。 重要事項説明書に行政の相談受付窓口を明記している。 家族の訪問時や電話で家族の意見を聴きサービスの質の向上に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	関連施設への異動はなく利用者は馴染みの職員による安定したサービスを受けている。 3ユニット間の職員の異動はあるが、どのユニットの利用者とも馴染みの関係になっており、離職の際のダメージを最小限に抑えるために役立っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマに基づき内部研修を実施しているが、外部研修は職員が個人で受講するシステムになっている。	○	職員の育成がホームのサービスの質の向上に重要な役割を果たすことを認識し、内部研修を定期的開催するとともに、全職員が外部研修を受講できる体制づくりを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する会議や学習会に参加し、同業者との交流を積極的に行うとともに、リハビリ体操等を取り入れるなどサービスの質の向上に活かしているが、他同業者の職員同士で交流する機会は少なく、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な連携には至っていない。	○	他同業者と交流する機会を多くし、事業者同士協働しながら更にサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族に事業所をよく説明するとともに納得が得られるサービスを心がけている。 利用開始にあたっては利用者の不安を少なくするため、家族にも数日泊まってもらうなどの配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から教えてもらうことが多く、利用者は人生の先輩であるとの考えをもって敬っている。 利用者と職員は喜怒哀楽をお互い表現し毎日を過ごしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用前の面接や情報提供により、これまでの生活歴を把握するとともに、言葉や表情などから思いや意向を把握している。把握が困難な場合は家族の意見を聴き職員間で話し合い共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用前の面接で話し合い、利用者や家族の意向を重視するとともに必要な関係者と話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化が生じた場合は家族の意見を反映し、現状に即した介護計画に見直すとともに家族から確認印をもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用型共同生活介護サービスを提供するとともに、町や地域の介護支援専門員と受け入れ体制について連携を図っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に利用者と家族からかかりつけ医や希望の医療機関を確認している。 提携病院による月2回の往診や24時間受診可能な医療体制を整え、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について重要事項説明書に明記し、利用契約時に利用者と家族に説明をしている。 マニュアルを作成し関係者全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう支援している。 全職員が守秘義務を理解し、外部調査においても利用者と家族の了解を得てから個人情報を提供している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者一人ひとりの気持ちを確認しながら柔軟に支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や後片付けを利用者と職員が一緒に行っている。 利用者と職員は彩り良くバランスがとれた食事を一緒に摂っている。 行事の際は特別メニューとし、戸外行事の際のお弁当は利用者の楽しみになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回午前中と決めているが、日曜日以外は3ユニット間で連携を図り利用者の希望にそって入浴支援をしている。 入浴拒否の利用者には職員が思いやりのある言葉かけで入浴を促している。	○	現在の入浴時間で良いか利用者の希望を再度把握し、希望にそった入浴支援を期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や得意なことを活かせる場面づくりをしている。 利用者の楽しみになるよう外出の際は手作り弁当を持参している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の自然環境を利用し職員は日々の散歩に心がけ利用者の楽しみとなっているが、近くに店舗はなくホーム専用の車もないため戸外行事や買物の機会が少ない。	○	利用者自身の買物の楽しみが通院の際の売店だけでなく、レンタカーなどの社会資源を計画的に活用することにより利用者の外出の機会を増やすことを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は周辺環境や利用者の危険防止と防犯に配慮し鍵をかけているが、広い中庭には共用空間の数箇所から自由に入出入りしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いにより消火訓練や避難訓練を年2回実施している。 災害時には法人内施設間で物品等の協力体制ができています。	○	近隣に住宅が少ないので地域消防団などの協力が得られる体制づくりが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	設置法人の栄養士により栄養バランスの取れた献立を作成している。 利用者の身体機能に応じて調理方法を工夫している 食事の摂取量を毎日記録するとともに、水分は1日2回利用者全員で摂取し、それ以外は個人毎にポット等を用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体を花や利用者の作品で飾り、季節感や和やかな雰囲気づくりをしている。 共用空間はリビング兼食堂だが独立した畳の部屋があり、利用者は洗濯物たたみなどに利用している。 リビングや廊下に長椅子を設置し利用者同士がくつろぎ、一人で過ごせる場所を確保している。 トイレなども清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に洗面台や洗濯物干しを設置し日用品を置いたり利用者自身で洗濯を行うほか、家族の協力のもと使い慣れた馴染みの物品を置き自宅と同じ様に居心地良く生活できる場所になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。